

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 戸畑中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

#### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

#### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

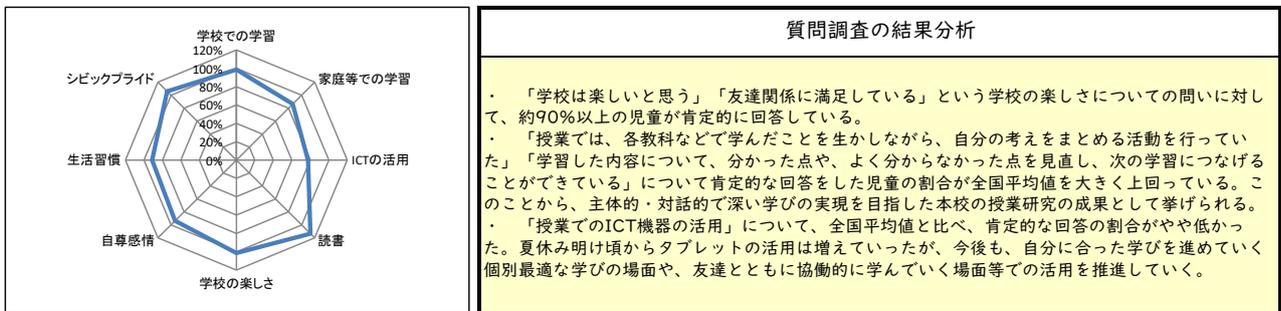
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 算数    |       | 理科    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 8.9   | 64    | 8.6   | 54    | 9.1   | 53    |
| 全国     | 9.4   | 67    | 9.3   | 58    | 9.7   | 57    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |  |                       |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の内容の正答率については、全国平均値とほぼ同数値となっている。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」の正答率が全国平均値をやや下回っている。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題   |                       |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 「測定」の領域についての正答率は、全国平均値を上回っている。しかし、「数と計算」「図形」の領域の正答率は、全国平均値をやや下回っている。                                   | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算する問題  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数の幾つ分になるかを、数や言葉を用いて記述する問題  |                       |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 「エネルギー」を柱とする領域の正答率については、全国平均値を上回っている。しかし、「粒子」「生命」を柱とする領域の正答率は、全国平均値をやや下回っている。                          | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題   |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があること知識が身に付いているかどうかをみる問題   |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 各教科等の学習で、友達との話し合い活動を適時取り入れることにより、自分の考えを広げ・深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるようにする。
- 授業の中で、ICTを効果的に活用することで、個別最適な学びや協働的な学びを生み出し、主体的・対話的で深い学びを実現することができるようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校通信や学年通信、懇談会等を通して、保護者に家庭学習の意義や方法について発信していく。また、食育や健康面等、基本的な生活習慣の大切さについても、通信等で啓発していくようにする。
- 小中連携事業（あいさつ運動やいじめ防止の取組等）を適時実施することで、規範意識等の醸成へと繋げる。